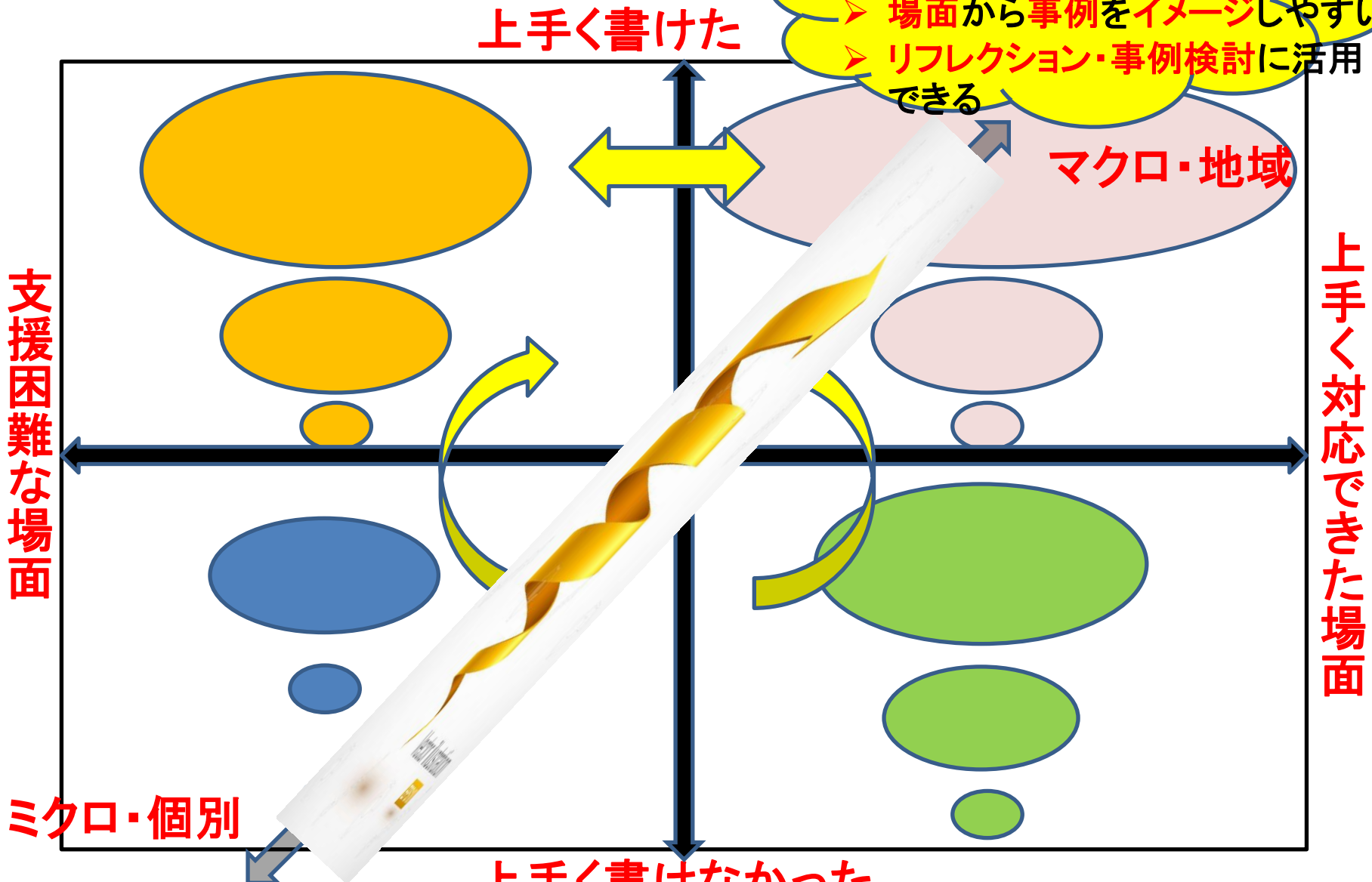


初回から継続していくと、個人・勤務先・地域の財産になります

- 読む→見るだけで分かる
- 一瞬でイメージ・共有できる
- 場面から事例をイメージしやすい
- リフレクション・事例検討に活用できる



上手く書けなかった

図 生活支援記録法ワークシート【初回・OJT版】の3次元枠組み

# 生活支援記録法ワークシート

## 【初回・OJT版】 活用例

➤生活支援記録法の研修は、時間や目的、主催者や研修講師の意向などにより、全ての研修において、「生活支援記録法ワークシート【初回・OJT版】」が使用されるわけではありません。使用する場合も、時間の関係で上段の一部のみとなることもあります。

➤保健・医療・福祉・教育・行政等の対人援助専門職が活用できます。

➤本ワークシートは、生活支援記録法の理論基盤でもある、生活場面面接の研修において開発した「生活場面面接ワークシート」や多職連携(IPW)におけるリフレクションでの研究成果をふまえ、3つの軸を意識した実践・研修・事例検討・リフレクション・OJT等において活用することにより、多様な効果が期待できます。

(1)その場面が 上手く対応できたか、困難であったか

(2)経過記録として 上手く書けたか、 上手く書けなかったか

(3)活用目的による人数・範囲:効果が拡大します  
ミクロ(個人)・メゾ(機関・チーム)、マクロ(地域)

# 【研修参加者の場合：活用例】

- ・事前課題として上段の①のみに取り組む
- ・研修後、下段(⑥～⑧)に取り組む
- ・1ヶ月後(生活支援記録法に慣れた頃)、2枚目のワークシートを記載し、**1枚目のシートと比較し、変化等**を勤務先にて発表する。
- ・3ヶ月後：**後輩のOJTのツール**として
- ・6ヶ月後：**事例検討の資料**として  
生活支援記録法の**研修：実践報告**
- ・1年後：**人材育成や自己評価のツール**として  
勤務先での**研修資料**として  
地域での**困難事例の資料**として  
生活支援記録法の**研修：講師**：自身と職場における効果
- ・1年半後：**学会発表**

# 【実践報告や講師：研修での活用例】

➤生活支援記録法は、**個人・チーム・多職種・地域にて、効果的なりフレクションにより、個人や多職種の成長・連携等に役立つ**ものです。生活支援記録法の効果を最大限に活かせるよう、定期的に「生活支援記録法ワークシート」にて、共有することが重要です。

## 【生活支援記録法のセミナー：研修講師育成】

・栃木県で開催のセミナー受講の要件

生活支援記録法ワークシート【初回・OJT版】を、研修受講時（1回目）と、1ヶ月後（2回目）の2枚提出

※SOAPやフォーカス・チャータリングの経験者は、教材を読むだけで生活支援記録法ワークシートを作成できる方もいます。

# 生活支援記録法ワークシート

## 【初回・OJT版】書き方

① 援助が困難・うまくいった / 書けていない・書けている

①の欄:

場面→「援助が困難な場面」か「うまくいった場面」を選ぶ  
記録→「うまく書けていない」か「うまく書けている」を選ぶ  
該当するものを囲んで下さい。

②の欄:F-SOAIP

F-SOAIPの記号を記入して下さい。

③の欄:

①の場面で、F-SOAIPのうち、**補足や抜けていた内容**があれば、該当する項目に記入し、

①のどこに**挿入**すべきか、矢印(→)で示して下さい。

④⑤の枠：①～③までを通じ、できたこと、難しかったことを記入して下さい。

## ⑥【説明】

⑥の欄：上段のワークをふまえ、書き直してみましよう。

⑦の欄：

ワークシートを行う前後での、気づきや学び、考え方の変化などについて記入して下さい。

⑧の枠：

今後、どのように生活支援記録法を活かしたいかについて記入して下さい。